

令和元年11月26日
第29期東京都立図書館協議会

平成30年度都立図書館自己評価に対する意見

第29期東京都立図書館協議会は、第2回定例会（令和元年11月26日開催）において、東京都立図書館が実施した「平成30年度東京都立図書館自己評価」に対し、意見を述べた。主な意見は以下のとおりである。

【来館型サービスに関する指標】

○レファレンス件数が減ったことについて、ある意味で利用者教育が進んだ側面があり、喜ばしい結果であるといえる。反面、利用実態満足度調査で「都立図書館を利用する最も大きな理由」の項目で、「職員が資料の相談にのってくれるから」という回答数は少ない。まだレファレンス利用の伸びしろがあるのではないか。

○検索サービスなどを充実させることによって、口頭でのレファレンスの質問が減ってしまうなど、必ずしもそれが悪いことではないような指標もある。指標は「上がるのが基本」という目で見えてしまうので、見せ方、分け方についても工夫が必要である。

【広報に関する指標】

○ホームページについて、外国語ページのアクセスが上がっているなど、一定の評価ができるのではないか。